

新宿区景観まちづくり計画等改定ワーキンググループ

景観まちづくりワーキング

実施要領(案)

青文字・・・今後の作成方針メモ

赤文字・・・確認事項

目次

ワーキンググループの概要 2

景観形成ガイドラインとは？ 3

新宿区景観行政のあゆみ 5

企画の主旨・目的 6

景観計画等の改定について 7

ワーキンググループの役割と体制 8

ワーキンググループの流れ・スケジュール 11

各地区・エリアの紹介 12

チーム編成・エリア分担 13

連絡体制・方法 14

ワーキンググループの作業方針 15

ワーキンググループのゴール 16

改定案検討の前提 17

「新たな視点」 18

各段階の具体的な作業について 19

事前調査 20

本調査・検討 - 現地調査 22

本調査・検討 - 改定素案検討 25

最終報告会 27

(参考) デザインシート等の例

事前調査のとりまとめ例 29

エリア別デザインシート① 30

エリア別デザインシート② 31

地区別デザインシート 32

ワーキンググループの概要

景観形成ガイドラインとは？

新宿区の景観・・・

地形

豊島台地、淀橋台地、
河川沿いの低地・・・

水
みどり

神田川、妙正寺川、
外濠・・・
新宿御苑、明治神宮外苑、
斜面緑地・・・

まちの
記憶

土地利用や街路形成の変遷、
そこで展開されてきた人々の
営みの歴史や文化・・・

区内には個性的で多様な景観が形成されている

超高層ビル群、みどり濃い住宅地、世界最大の繁華街、地域の風情ある商店街、
江戸の歴史を感じさせる路地、アジアの異国情緒あふれる通り・・・

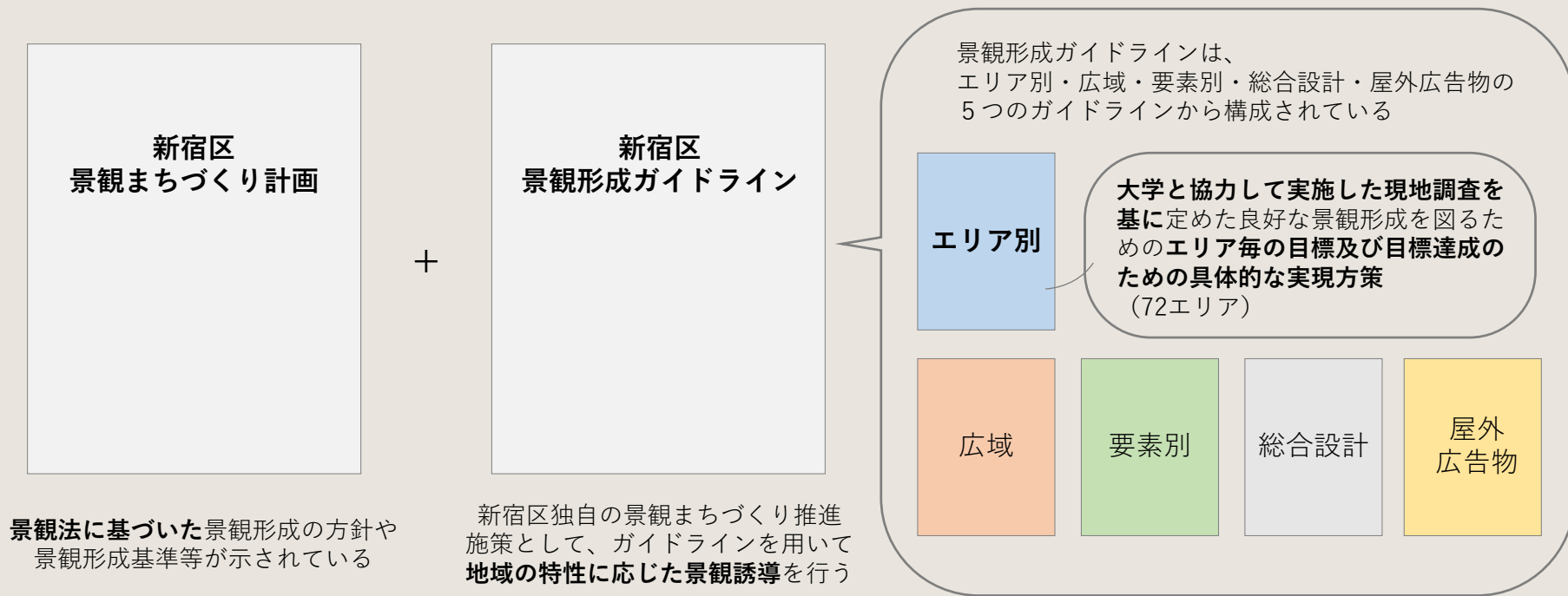


「個性的で多様な景観」を区の魅力・貴重な財産として活かしながら
まちづくりを推進していくことが重要

⇒ **地域の個性に光をあてた景観まちづくり**の推進

景観形成ガイドラインとは？

地域の個性に光をあてた景観まちづくり推進のための取組として・・・



エリア別景観形成ガイドラインは、景観事前協議やその他まちづくり活動の推進
にあたってベースとして活用される資料であり、

「地域の景観特性にふさわしい景観誘導」を行っていく上で特に重要な存在

新宿区の景観行政のあゆみ

平成3年 1991年	新宿区景観基本計画策定	
平成4年 1992年	新宿区景観まちづくり条例施行	新宿区景観まちづくりWG 参加大学の学生が 区内を隈なく歩いて調査し、 各地区・エリアの 景観まちづくりを提案して 冊子にとりまとめました
平成16年 2004年	景観法公布	
平成18年 2006年 平成19年 2007年	区内の詳細な景観調査実施 新宿区景観まちづくりガイドブック発行	
平成20年 2008年	景観行政団体への移行	※当時のWG参加大学 東京大学 都市デザイン研究室 早稲田大学 後藤研究室 工学院大学 窪田研究室（当時）
平成21年 2009年	新宿区景観まちづくり計画・新宿区景観形成ガイドラインの策定	景観まちづくりガイド ブックの内容を基に エリア別ガイドライン を策定しました
令和2年 2020年 令和4年 2022年	新宿区景観まちづくり計画・新宿区景観形成ガイドライン 改定作業	
令和5年 2023年	改定版新宿区景観まちづくり計画・景観形成ガイドライン施行（予定）	

企画の主旨・目的

引き続き、地域の景観特性を踏まえた上で良好な景観を育んでいくためには、
ガイドラインが社会情勢やまちの変化に柔軟に対応していくことが重要であり、
前回策定時から10余年が経過した今、
ふたたびまちを歩きながら点検し見直しを行う必要がある



本ワーキンググループの目的

前回策定時と同様、都市や景観を学ぶ学生 みなさんと一緒に
まちを歩きながら現行ガイドラインの内容を点検し、
新たなまちづくりの視点もとりにれたバージョンアップを行う

景観計画等の改定について

※景観計画等＝景観まちづくり計画・景観形成ガイドライン
GL＝ガイドラインの略

エリア別景観形成ガイドラインだけでなく、景観まちづくり計画や、他の景観形成ガイドライン（＝全て合わせて「景観計画等」）の改定も同時に行う

景観計画等改定のポイント

- (1) 新たな視点や考え方に伴う追加・見直し
- (2) 運用面での課題への対応
- (3) 現況にあわせた時点修正

エリア別GLの改定では、
全体的な時点修正や、
必要に応じた目標・方針の見直し等が求
められており、その一部をみなさんに
検討してもらいます。

新宿区
景観まちづくり計画

+

新宿区
景観形成ガイドライン

エリア別

現地調査を基に定めた良好な景観形
成を図るためのエリア毎の目標及び
目標達成のための具体的な実現方策
(72エリア)

広域

要素別

総合設計

屋外
広告物

景観法に基づいた景観形成の方針や
景観形成基準等が示されている

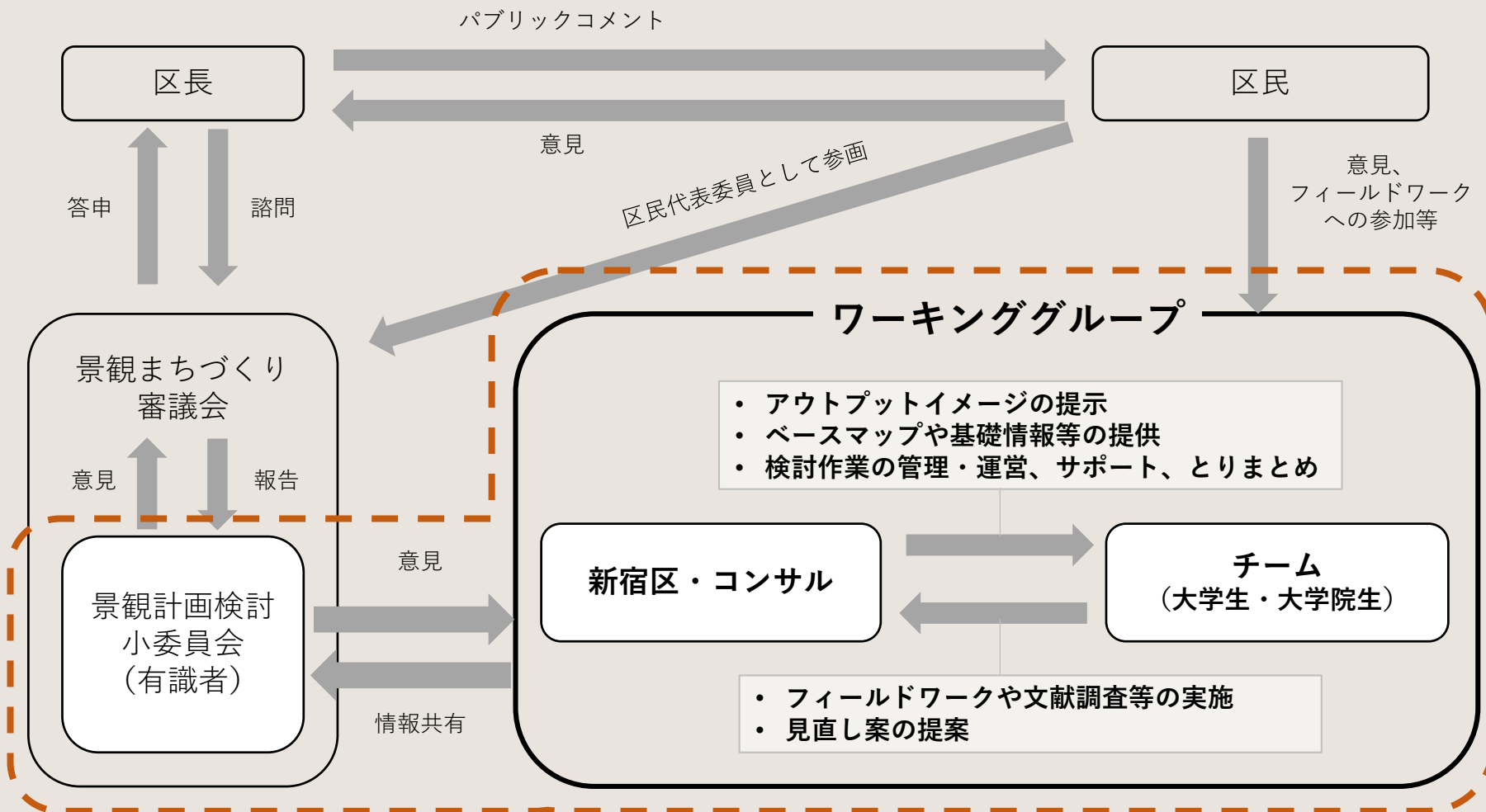
新宿区独自の景観まちづくり推進
施策として、ガイドラインを用いて
地域の特性に応じた景観誘導を行う

ワーキンググループの役割と体制

景観計画等改定の検討体制

景観まちづくり審議会	有識者や区民の代表等から構成され、小委員会からの意見を踏まえてとりまとめた検討案について審議する。
景観計画検討小委員会	有識者により構成され、事務局が報告する改定の方向性や改定内容、検討案等について意見を行う。
<u>ワーキンググループ</u>	エリア別景観形成ガイドライン改定の一部を担当する。大学生・大学院生で構成されたチームがエリアを分担して、現地調査を行い、見直し案を作成する。
区民	まちづくりに関わる地域団体へのヒアリングや、改定素案についてのパブリックコメント、改定地区毎の説明会開催、ワーキンググループのまちあるきへの参加等の方法で区民の意見を反映する。

ワーキンググループの役割と体制



ワーキンググループの役割と体制

■新宿区景観計画検討小委員会 委員の先生方

中島直人先生 (東京大学准教授) ※委員長

篠沢健太先生 (工学院大学教授)

坂井 文先生 (東京都市大学教授)

伊藤香織先生 (東京理科大学教授)

■上記以外のWG参加大学の先生方

佐々木葉先生 (早稲田大学教授)

佐藤宏亮先生 (芝浦工業大学准教授)

中島 伸先生 (東京都市大学准教授)

野原 卓先生 (横浜国立大学准教授)

中島直人先生、佐藤先生、
中島伸先生、野原先生は、
現行GL策定時のWGにも
参加されていました

■事務局

WGに関する質問等は
まずはこちらご連絡
お願いします

WG主担当者

連絡先

八千代エンジニアリング
株式会社

土田

TEL : 03-5822-2214
MAIL : sh-tsuchida@yachiyo-eng.co.jp

ワーキンググループの流れ・スケジュール

WGの流れ・スケジュールは以下を予定しています。ミーティングや最終説明会の日程や開催方法は決定し次第ご連絡します。チーム毎の現地調査日程や作業スケジュールはみなさんの間で調整して構いません。

6 月

■本日：全体説明会

基礎資料等を事務局
から提供します

7 月

■キックオフミーティング

事前調査

現行GLのレビュー
現行GL策定時以降の変化確認
まちあるき調査ポイントや改定方針の検討

チームリーダー中心に
事務局と随時やりとり
しながら進めてもらい
ます

8 月

■中間ミーティング

本調査・検討

現地調査の実施
改定素案の検討
デザインシートの作成

チーム毎に自由なスケ
ジュールで作業を進め
てください

■最終報告会

9 月

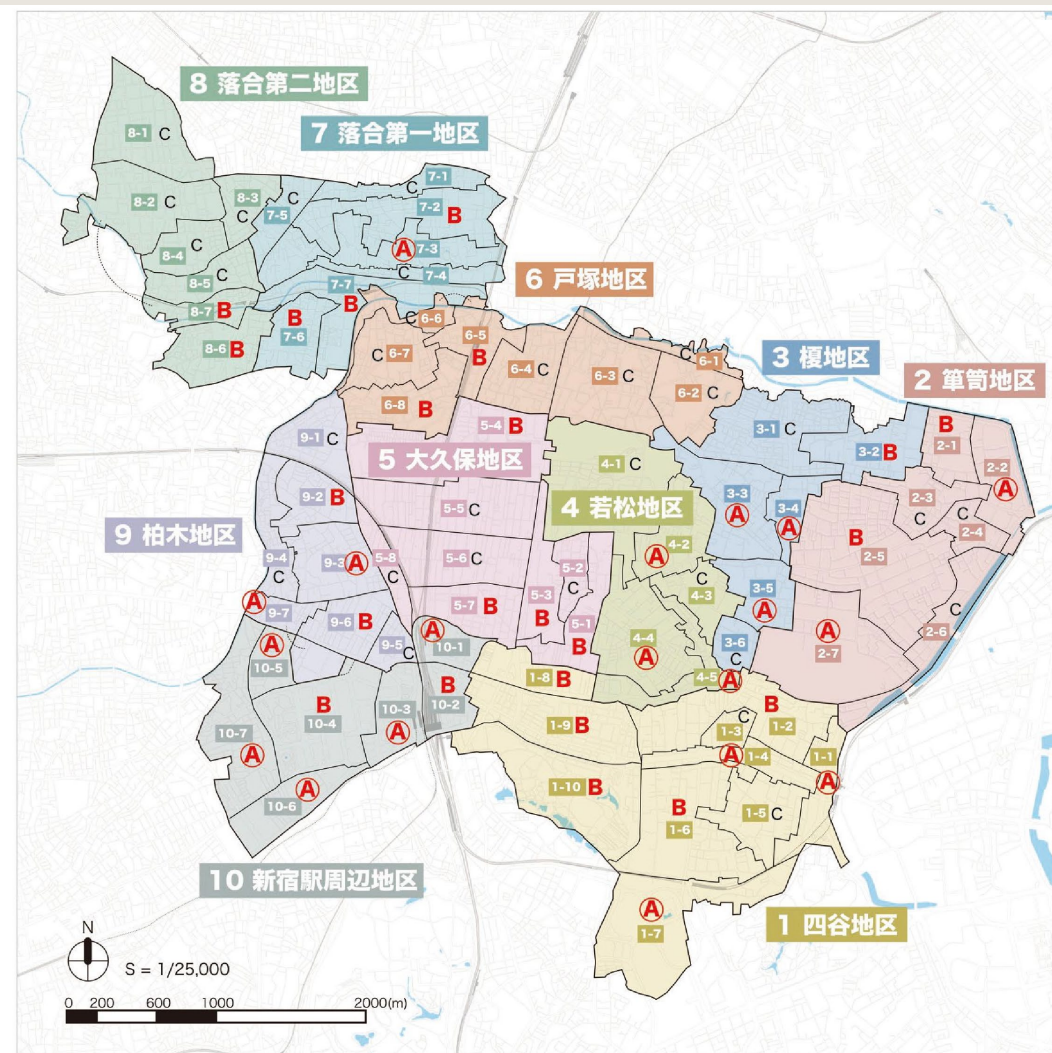
ミーティングや報告会
では先生方から
アドバイスを頂きます

事務局によるガイドライン編集作業

みなさんの成果を基に
ガイドライン改定作業
を進めます

各地区・エリアの紹介

※各地区・エリアの概要を整理したページを設ける予定
(1地区1ページ程度)



エリア別景観形成ガイドライン エリア区分図

1 四谷地区

- 1-1 四谷外濠エリア
- 1-2 四谷北エリア
- 1-3 荒木町エリア
- 1-4 四谷新橋通りエリア
- 1-5 若葉・須賀町エリア
- 1-6 四谷南・信濃町エリア
- 1-7 神宮外苑・南元町エリア
- 1-8 花園神社周辺エリア
- 1-9 内藤新橋エリア
- 1-10 新橋御苑・内藤町エリア

A
B
C
A
B
C
A
B
B
B

2 筆筒地区

- 2-1 五軒町エリア
- 2-2 飯田橋・大曲エリア
- 2-3 神楽坂(神社・寺町)エリア
- 2-4 神楽坂(雑地・横丁)エリア
- 2-5 牛込台地エリア
- 2-6 外濠斜面エリア
- 2-7 市谷本村台エリア

B
A
C
C
B
C
A

3 榎地区

- 3-1 早大通り区画整理エリア
- 3-2 江戸川横通り周辺エリア
- 3-3 牛込西斜面エリア
- 3-4 井天町合駁エリア
- 3-5 柳町外苑東通りエリア
- 3-6 市谷仲之町エリア

C
B
A
A
A
C

4 若松地区

- 4-1 戸山公園横山エリア
- 4-2 夏目坂エリア
- 4-3 女子大エリア
- 4-4 余丁町周辺エリア
- 4-5 曙橋エリア

C
A
C
A
A

5 大久保地区

- 5-1 西向天神社エリア
- 5-2 大塚エリア
- 5-3 東新宿・文化センターエリア
- 5-4 戸山公園大久保エリア
- 5-5 大久保通り北エリア
- 5-6 大久保通り南エリア
- 5-7 歌舞伎町二丁目エリア
- 5-8 小滝橋通り沿道エリア

B
C
B
B
C
C
B
C

6 戸塚地区

- 6-1 西影橋エリア
- 6-2 早稲田大学周辺エリア
- 6-3 西早稲田エリア
- 6-4 舞鶴エリア
- 6-5 高田馬場駅周辺エリア
- 6-6 田島橋エリア
- 6-7 高田馬場西エリア
- 6-8 西戸山公園エリア

C
C
C
C
B
C
C
B

7 落合第一地区

- 7-1 目白通り沿道エリア
- 7-2 下落合台地エリア
- 7-3 下落合斜面エリア
- 7-4 新目白通り沿道エリア
- 7-5 目白文化村周辺エリア
- 7-6 上落合エリア
- 7-7 神田川・妙正寺川エリア

C
B
A
C
C
B
B

8 落合第二地区

- 8-1 西落合北エリア
- 8-2 西落合南エリア
- 8-3 目白文化村周辺エリア
- 8-4 目白大学周辺エリア
- 8-5 中井斜面エリア
- 8-6 上落合エリア
- 8-7 妙正寺川エリア

C
C
C
C
C
B
B

9 柏木地区

- 9-1 北柏木区画整理エリア
- 9-2 内照寺周辺エリア
- 9-3 新江山周辺エリア
- 9-4 神田川エリア
- 9-5 新宿駅北側区画整理エリア
- 9-6 成子町エリア
- 9-7 柏木南再開発エリア

C
B
A
C
C
B
A

10 新宿駅周辺地区

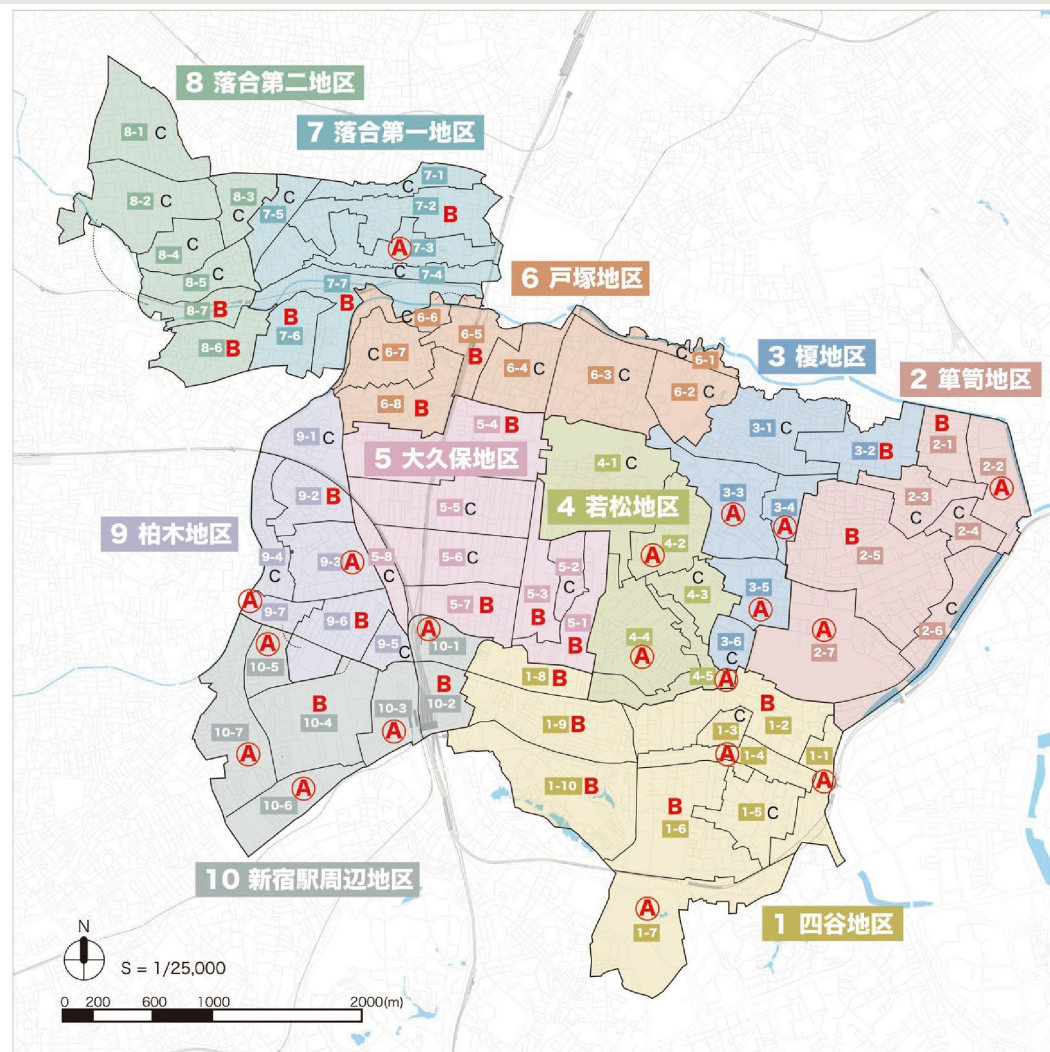
- 10-1 歌舞伎町一丁目エリア
- 10-2 新宿駅東口エリア
- 10-3 新宿駅西口エリア
- 10-4 麹町エリア
- 10-5 角筈北再開発エリア
- 10-6 甲州街道沿道エリア
- 10-7 淀橋・十二社エリア

A
B
A
A
A
A
A

チーム編成・エリア分担

チーム編成・エリア分担について（別紙参照）

※チーム編成・エリア分担の紹介ページ（全体説明会までにエリア分担を確定させる場合）



エリア別景観形成ガイドライン

エリア区分図

1 四谷地区

- 1-1 四谷外濠エリア
- 1-2 四谷北エリア
- 1-3 荒木町エリア
- 1-4 四谷新橋通りエリア
- 1-5 若葉・須賀町エリア
- 1-6 四谷南・信濃町エリア
- 1-7 神宮外苑・南元町エリア
- 1-8 花園神社周辺エリア
- 1-9 内藤新橋エリア
- 1-10 新橋御苑・内藤町エリア

6 戸塚地区

- 6-1 西影橋エリア
- 6-2 早稲田大学周辺エリア
- 6-3 西早稲田エリア
- 6-4 舞鶴エリア
- 6-5 高田馬場駅周辺エリア
- 6-6 田島橋エリア
- 6-7 高田馬場西エリア
- 6-8 西戸山公園エリア

7 落合第一地区

- 7-1 目白通り沿道エリア
- 7-2 下落合台地エリア
- 7-3 下落合斜面地エリア
- 7-4 新目白通り沿道エリア
- 7-5 目白文化村周辺エリア
- 7-6 上落合エリア
- 7-7 神田川・妙正寺川エリア

8 落合第二地区

- 8-1 西落合北エリア
- 8-2 西落合南エリア
- 8-3 目白文化村周辺エリア
- 8-4 目白大学周辺エリア
- 8-5 中井斜面地エリア
- 8-6 上落合エリア
- 8-7 妙正寺川エリア

9 柏木地区

- 9-1 北柏木区画整理エリア
- 9-2 内藤寺周辺エリア
- 9-3 新江山周辺エリア
- 9-4 神田川エリア
- 9-5 新宿駅北側区画整理エリア
- 9-6 成子町エリア
- 9-7 柏木南再開発エリア

10 新宿駅周辺地区

- 10-1 歌舞伎町一丁目エリア
- 10-2 新宿駅東口エリア
- 10-3 新宿駅西口エリア
- 10-4 西高層エリア
- 10-5 角筈北再開発エリア
- 10-6 甲州街道沿道エリア
- 10-7 淀橋・十二社エリア

2 筆筒地区

- 2-1 五軒町エリア
- 2-2 聖田橋・大曲エリア
- 2-3 神楽坂(神社・寺町)エリア
- 2-4 神楽坂(商店・横丁)エリア
- 2-5 牛込台地エリア
- 2-6 外濠斜面地エリア
- 2-7 市谷本村台地エリア

3 榎地区

- 3-1 早大通り区画整理エリア
- 3-2 江戸川橋通り周辺エリア
- 3-3 牛込西斜面地エリア
- 3-4 井天町合駁エリア
- 3-5 柳町外苑東通りエリア
- 3-6 市谷仲之町エリア

4 若松地区

- 4-1 戸山公園御樹山エリア
- 4-2 夏目坂エリア
- 4-3 女子聖大エリア
- 4-4 余丁町周辺エリア
- 4-5 曙橋エリア

5 大久保地区

- 5-1 西向天神社エリア
- 5-2 大塚エリア
- 5-3 東新橋・文化センターエリア
- 5-4 戸山公園大久保エリア
- 5-5 大久保通り北エリア
- 5-6 大久保通り南エリア
- 5-7 歌舞伎町二丁目エリア
- 5-8 小滝橋通り沿道エリア

連絡体制・方法

■連絡体制

ワーキンググループの期間中は、各チームのリーダーが中心となって、コンサル担当者と随時やりとり・相談を行いながら作業を進めてもらいます。

不明点や相談・提案等があれば、気軽にご連絡ください。

コンサル担当者

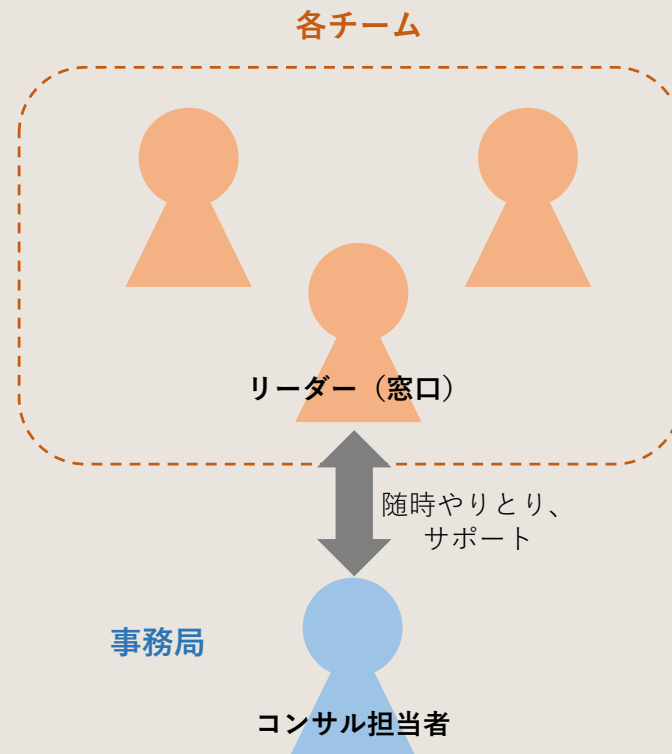
ツチダ
ノナカ
・・・

※チーム編成が決まっていれば、
各チームの担当者は誰か示す



■連絡方法

連絡はメールを中心に行っていきます。
また、データ共有方法として、GoogleDrive等のクラウドサービスも活用し、他チームのデータも見られるようにする予定です。



ワーキンググループの作業方針

ワーキンググループのゴール

- ガイドライン改定に向けてみなさんに求めるのは、各エリアの**景観方針図の更新**と、**景観形成目標・方針等の改定素案の検討**です。
- みなさんの検討結果を材料として事務局の方で紙面に落とし込んでいく予定であり、紙面の直接的な編集をみなさんにはお願いすることは想定していません。



この図の更新

中身部分を更新するための
素案の検討

- そのため、みなさんに求める最終的なアウトプットとしては、**更新した景観特性図や、景観形成の目標等の見直し検討結果（改定素案）を取りまとめたデザインシート（※詳細は後述）を作成してもらうこと**とします。
- みなさんに作成してもらったデザインシートを基に、事務局がボタンタッチして、紙面に内容を反映させていきます。

改定案検討の前提

- 現行のガイドラインの景観形成の目標や方針は当時のWG参加者が区内を隈なく歩き回って調査した結果に基づいて導き出されたものであり、**この10余年でそれら全てが大きく変わるとは考えにくい**です。
- そこで検討に当たっては、**現行の内容を一から作り替える・まったく新しいものを発想するというのではなく、現行の内容を尊重しながら、まちや社会の変化に伴って時点更新すべき点がないかを点検**することを第一に行ってもらいたいです。
- その上で、現行ガイドライン策定以降の景観施策上の課題や近年のまちづくりの話題、社会情勢の変化等の「**新たな視点**」（※詳しくは後述）を踏まえて、**ガイドラインの更なる充実のために追加すべき内容について検討**を深めてください。



この内容の点検

+

「新たな視点」を踏まえた追加すべき内容の検討

「新たな視点」

- 現行ガイドライン策定以降の景観施策上の課題（景観ガイドライン改定方針の方向性）や近年のまちづくりの話題、社会情勢の変化等の「新たな視点」として以下のキーワードが挙げられます。
- エリアによっては特に新たな視点として取り入れてほしいキーワードがある場合もあるので、随時情報提供していきます。

景観ガイドライン改定方針の方向性

- 超高層ビル群のスカイライン
- 建築物の高さ
- 夜間の景観形成
- 屋外広告物（デジタルサイネージ、プロジェクションマッピング等）
- 日本らしい景観、国際色豊かな景観
- 公共空間における環境や人の活動

近年のまちづくりの話題

- ウォーカブル
- 居心地が良く歩きたくなる空間
- エリアマネジメント
- 官民連携
- グリーンインフラ

社会情勢

- アフターコロナ、ウィズコロナ
- SDGs、持続可能性
- ダイバーシティ

キーワードに関連する
資料を提供予定です

など・・・

各段階の具体的な作業について

！ 事前調査の目標

- ・ 担当エリアの地域特性・景観特性の理解
- ・ 現行ガイドラインの内容の把握
- ・ 現行ガイドライン策定以降のまちの変化
- ・ 現行ガイドライン策定以降の景観協議
- ・ 現地調査で確認する箇所、ポイントの整理

提供予定の基礎資料

- ・ 現行景観計画
- ・ 現行ガイドライン
- ・ 最新のベースマップや各種GISデータ
- ・ 現行ガイドライン策定以降の都市計画事業や再開発などの動きについての情報
- ・ 現行ガイドライン策定以降の景観協議事例
- ・ 注目してほしい新たな視点に関する話題提供

など

他にも必要な資料があれば
事務局にご相談ください

各チームに左記の基礎資料を提供します。
これらの資料や、その他各自で調べた文献等を基に、上記目標の達成を目指して担当エリアに関する調査を進めていただきます。

現地調査や本格的な検討作業に入る前に、
事前調査の成果をとりまとめてもらい、
キックオフミーティングで共有してもらう予定です。

※とりまとめフォーマットのイメージは次ページ

エリア名:

(例) 1-1 四谷外濠エリア

エリアの景観特性と現行GL策定以降の変化:

事務局が提供する更新したベースマップに、再開発地区等のまちの変化の情報やまちあるき時に特に確認しておきたい点等を加筆



※GL=ガイドライン

現行GL策定以降の状況整理 ※事務局提供基礎資料有り

現行GL策定以降のまちの変化:

〇〇地区再開発

(説明).....
.....
.....

図や写真など

〇〇地区地区計画施行

(説明).....
.....
.....

図や写真など

現行GL策定以降の主要な景観協議案件:

〇〇ビル

(説明).....
.....
.....

図や写真など

その他:

(説明).....
.....
.....

図や写真など

...その他自主的に調べた事項や、事前まちあるきを行ったときの気づき等を記載

(説明).....
.....
.....

図や写真など

！ 現地調査の目標

- ・ 景観特性図の更新や改定素案検討に向けて、事前調査の段階で整理したポイントを中心に、エリアの現在の様子を確認する
- ・ ガイドラインに掲載する写真を撮影する

現地調査では、事故やトラブル発生を予防するため、**以下の注意点を遵守**してください。また、次ページのまちあるきのコツも参考にしてみてください。なお、予定が合えば各エリアに詳しい**区民委員の方が現地調査に同行**する可能性があります。その際は、前回策定時からのまちの変化等についてぜひ色々お話を伺って参考にしてみてください。

現地調査における注意点

1. 各チームがまちあるきをする日程は**必ず事前に事務局に報告**する。
2. まちあるき**開始時・終了時に必ず事務局担当者に連絡**を入れる。また、**トラブル等発生時にはすぐに事務局へ連絡**する。
3. 真夏に実施予定のため、**熱中症には十分注意し、こまめに水分補給・休憩**をとる。
4. 写真撮影時は、**個人の顔や車のナンバープレート等が写り込まないように注意**する。
(写り込んだ場合は加工が必要になる)
5. 大声で騒ぐ等、**周辺住民に迷惑となる行為は絶対に行わない**。
6. マスク着用を徹底する等、**新型コロナウイルス感染対策**を行う。

みなさん独自の“まちあるき流儀”を大切にしながら、以下も参考にしてみてください。

現地調査のコツ

現地調査に行く前に、事前に歩くコースを大まかに想定し、**おおむねの所要時間や休憩ポイント等**をつかんでおきましょう。

（もちろん、おおむねでOKです。当日の一期一会も大切にしながらエリアを隈なく歩いてみてください。）

現地調査中は、**歩いた道や、写真撮影した場所・方向を地図にメモ**しておきましょう。（**写真に位置情報を付加できるカメラ**の使用がおすすめです。）また、その時気づいた点なども、その時にメモしておくといいでしょう。

また、進行方向だけではなく、たまには来た道を振り返ってみてください。**同じ道でも逆方向から見ると印象が違って見え、新たな気づきにつながる**ことがあります。

本調査・検討 - 現地調査

現地調査後は、その記憶がなくないうちに、簡単で良いので各エリア毎に**現地調査の記録**を残してください。

形式・分量は自由とします。手書きでも構いません。

▼現地調査の記録のイメージ（地図と写真、感想・気づいた点等を書きこむ）

〇〇エリアまちあるきの記録

写真

写真

写真

写真

写真

！ 改定案検討作業の目標

- ・ ワーキングの成果のアウトプットとして、ガイドライン改定案の基となるデザインシートをとりまとめる

ここまでに行ってきた「事前調査」や「現地調査」の成果を踏まえて、**エリア毎に景観形成の目標及び方針を検討**してください。

また、現行ガイドラインでは、「地区全体」については「概要」が整理されているだけで、地区全体の「景観形成の方向性」が示されていません。

そこで、地区全体の概要についての時点更新を行いつつ、「**地区全体の景観形成の方向性（案）**」を検討してみてください。

以上の検討結果を、**デザインシート（※次ページで詳述）**としてとりまとめてください。

検討過程での疑問や、エリア境界の変更案、新たな表現方法の提案等があれば、**随時気軽に事務局に相談**してください。なお、**8月中旬頃開催予定の中間ミーティング**は、その時点の進捗や疑問点等を共有する場とする予定です。

本調査・検討 - 改定素案検討

最低限求めるアウトプット：以下シートの内容 ※シート例は本実施要領巻末に掲載

エリア別デザインシート①



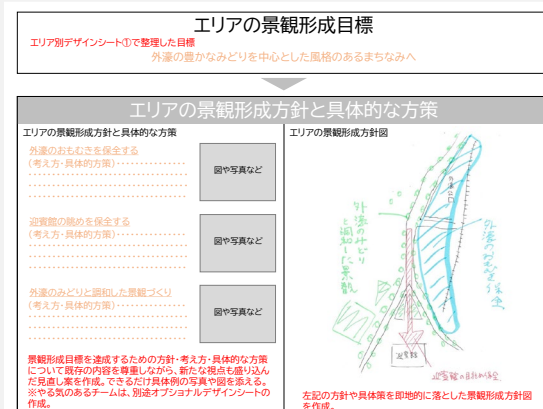
エリアの景観形成目標と考え方

外濠の豊かなみどりを中心とした風格のあるまちなみへ
外濠の豊かなみどりを活用しながら、近隣や高層ビル
に囲まれる高層のまちなみをエリア全体に広げていく。
エリアの景観特性に基づいて、景観形成の目標を導き出すという流れを意識しながら目標の視直しを行う

エリアの景観特性

エリアの景観形成目標

エリア別デザインシート②

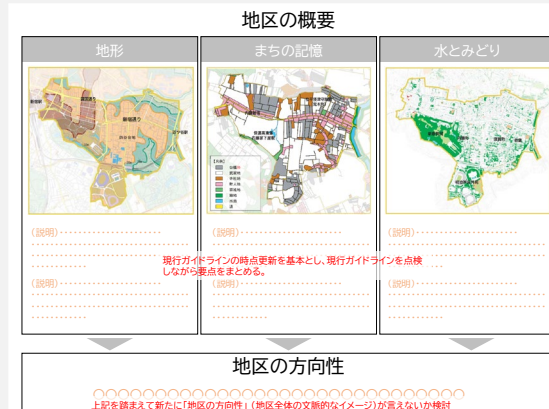


景観形成目標達成に向けた

景観形成方針と具体的な方策

各エリア1セット作成

地区別デザインシート



地区の概要整理と方向性

担当地区（1チーム1地区想定）
について作成

やる気・余力のあるチームは・・・

各エリアの景観特性や景観形成方針・具体的な方策について、上記デザインシートに入りきらない内容等をより詳細にとりまとめた“**オプションデザインシート**”（形式自由）を作成してもOKです。

なお、みなさんに作成してもらったデザインシートは、本ワーキンググループの成果物として冊子等にとりまとめることも検討しています。

！ 最終報告会の目標

- ・ ガイドライン改定素案（デザインシート）の発表を行う
- ・ 有識者の先生方からコメント・講評をいただく
- ・ ワーキンググループ参加者全体でこれからの景観まちづくりについて議論する

ワーキングの最後に、デザインシートをはじめとしたこれまでの成果についてチーム毎に発表を行ってまいります。

発表内容に対して、**小委員会委員の先生方や、後藤春彦景観まちづくり審議会会長からコメントや講評をいただく**予定です（ご出席いただける先生方は現在調整中）。

最終報告会では「新宿の景観はどうあるべきか」「これからの景観まちづくりはどうあるべきか」について、**ワーキング参加者のみなさんや、有識者の先生方と議論を深めてもらい、ワーキングを締めくくりたい**と思います。

最終報告会までに取りまとめてもらった内容を基に、事務局がガイドライン改定案の編集作業を行っていきます。

SHINJUKU

2021年春・夏

新宿区景観まちづくり計画等改定ワーキンググループ

事務局

八千代エンジニアリング株式会社

KEIKAN WORKING

エリア名:

(例) 1-1 四谷外濠エリア

エリアの景観特性と現行GL策定以降の変化:

事務局が提供する更新したベースマップに、再開発地区等のまちの変化の情報やまちあるき時に特に確認しておきたい点等を加筆



現行の「策定以降の状況整理 ※事務局提供基礎資料有り

現行GL策定以降のまちの変化:

〇〇地区再開発

(説明).....
.....
.....

図や写真など

〇〇地区地区計画施行

(説明).....
.....
.....

図や写真など

現行GL策定以降の主要な景観協議案件:

〇〇ビル

(説明).....
.....
.....

図や写真など

その他:

(説明).....
.....
..... その他自主的に調べた事項や、事前まちあるきを行ったときの気づき等を記載

図や写真など

(説明).....
.....
.....

図や写真など

エリアの景観特性のポイント



(簡単に説明)

図や写真など

(簡単に説明)

図や写真など

(簡単に説明)

図や写真など

現行ガイドラインの景観特性図を更新したものを貼り付け

エリアの景観形成目標と考え方

外濠の豊かなみどりを中心とした風格のあるまちなみへ

外濠の豊かなみどりを守り育てながら、迎賓館や四谷見附橋に見られる西洋的なおもむきをエリア全体に広げていく。

エリアの景観特性に基づいて、景観形成の目標を導き出すという流れを意識しながら目標の見直しを行う

エリアの景観形成目標

エリア別デザインシート①で整理した目標

外濠の豊かなみどりを中心とした風格のあるまちなみへ

エリアの景観形成方針と具体的な方策

エリアの景観形成方針と具体的な方策

外濠のおもむきを保全する

(考え方・具体的方策).....

図や写真など

迎賓館の眺めを保全する

(考え方・具体的方策).....

図や写真など

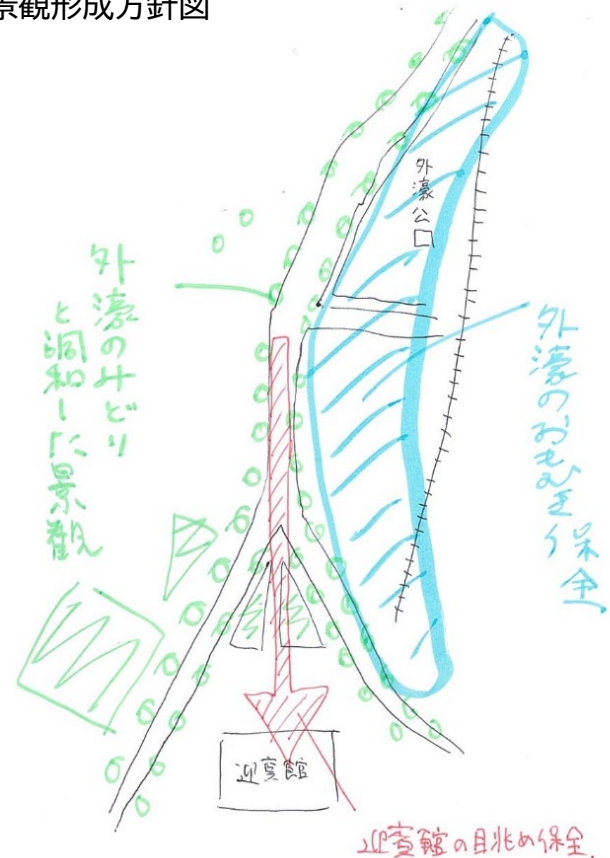
外濠のみどりと調和した景観づくり

(考え方・具体的方策).....

図や写真など

景観形成目標を達成するための方針・考え方・具体的な方策について既存の内容を尊重しながら、新たな視点も盛り込んだ見直し案を作成。できるだけ具体例の写真や図を添える。
※やる気のあるチームは、別途オプションデザインシートの作成。

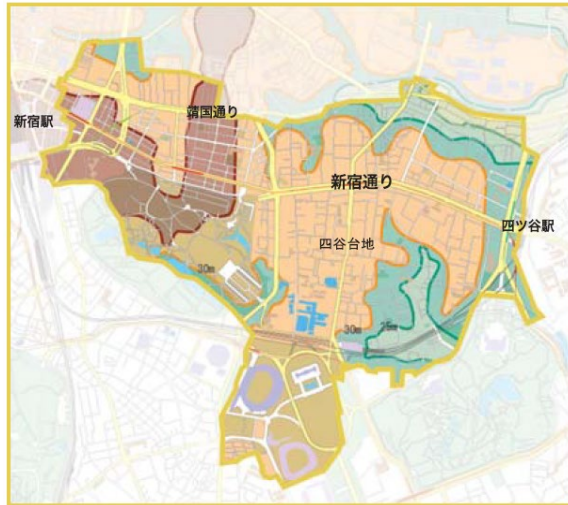
エリアの景観形成方針図



左記の方針や具体策を即地的に落とした景観形成方針図を作成。

地区の概要

地形



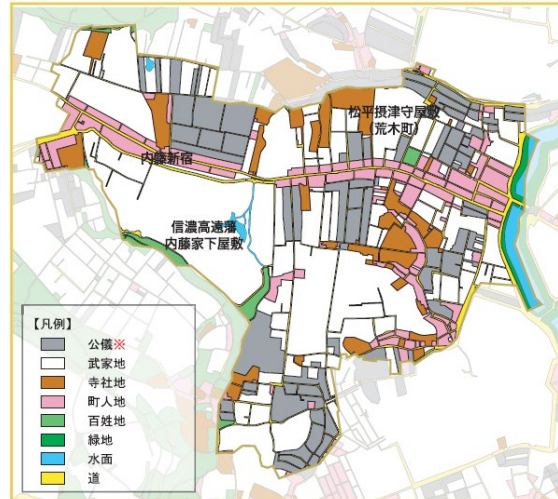
(説明).....

.....

(説明).....

.....

まちの記憶



(説明).....

.....

(説明).....

.....

水とみどり



(説明).....

.....

(説明).....

.....

現行ガイドラインの時点更新を基本とし、現行ガイドラインを点検しながら要点をまとめる。

地区の方向性



上記を踏まえて新たに「地区の方向性」(地区全体の文脈的なイメージ)が言えないか検討